

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	畜産課長 田邊 裕彦	電話番号	0852-22-5132
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	中小家畜対策事業		
目的	(1) 対象	中小家畜生産者	
	(2) 意図	中小家畜生産者の経営安定	
事業概要	採卵の生産振興に関する事業及び養ほう振興法に基づく飼育届の受理と転飼許可に関する事務。 また、県内産畜産物の消費拡大を図る。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	採卵鶏飼養農家戸数	28.00	28.00	25.00	
	式・定義	採卵鶏飼養農家戸数（家畜飼養状況調査）	28.00	28.00	25.00	26.00		
	達成率		100.00	89.30	92.90		%	
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		0.00	0.00	0.00				
式・定義		0.00	0.00	0.00				
達成率			0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,581	789
うち一般財源(千円)	1,581	789

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 採卵鶏農家の1戸当たりの規模拡大は着実に進んでいるが、担い手の高齢化、飼料価格の高騰から農家の減少傾向にある。
- 平成26年度みづばちの飼育届け件数は185件、転飼許可件数は10件（77箇所）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 鶏卵の出荷状況等の情報を関係機関・団体等へ提供し情報共有を図った。
- 消費還元イベントの開催やPRパンフレットの配布等を通じて、県内消費者における県産畜産物への理解醸成を図った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

採卵鶏経営については、配合飼料の高騰等により経営状況が依然として厳しい。

②困っている状況が発生している「原因」

配合飼料価格の高騰等により生産コストが上昇

③原因を解消するための「課題」

・生産者の経営の安定化を図るため、消費拡大運動など生産者組織等と連携した取組の更なる促進。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

今年度実施した消費拡大PRイベント、消費者アンケート等の結果等を検証し、関係団体等と連携し効果的な消費拡大への取組を検討・実施する。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）